

## 教育学研究室メンバー活動報告(1999.9～2001.10)

橋本紀子

〔著書・論文〕

- ・『生きるってすてき』（ジェンダー・フリーの絵本 2 巻，橋本紀子・朴木佳緒留・村瀬幸浩編，全 6 巻）大月書店，2001 年 1 月
- ・「北欧会議で“男”は何を語ったか」（“人間と性”教育研究協議会編『季刊 SEXUALITY』No.2，エイデル研究所，2001 年 4 月）pp.24-31.
- ・橋本紀子他，民主教育研究所編『Women & Men in Japan ―日本のジェンダー統計』／“Women & Men in Japan ― Gender Statistics 日本のジェンダー統計”（英語版）（両性の平等と教育パンフレット No.4）2001 年 6 月
- ・「ジェンダー視点から見た北欧と日本」『歴史地理教育』2001 年 11 月号 pp.38-43.

田代美江子

〔著書・論文〕

- ・「十五年戦争における廃娼運動と教育―日本キリスト教婦人矯風会を中心に―」，松浦勉、渡部かよ子編『差別と戦争―人間形成の陥穽―』共著，明石書店，1999 年 11 月，pp.115-148.
- ・『『ジェンダー環境』としての家庭』，日本子どもを守る会『子ども白書 2000 年版』草土社，2000 年 7 月，pp.154-157.
- ・健康教育大辞典編集委員会編『子どもとのからだと心 健康教育大辞典』共著，(担当項目:性,性教育,性科学)旬報社,2001 年 7 月.
- ・「男性のセクシュアリティと性教育―近代日本の性教育論における男性と女性―」，“人間と性”教育研究協議会編『日本の男はどこから来て、どこに行くのか』共著，十月舎，2001 年 8 月，pp.54-71.
- ・「日本の性教育の歩み 第一次性教育ブーム― 1920 ～ 30 年代（その一）～（その四）」，“人間と性”教育研究協議会編『季刊 SEXUALITY』No.1,2001 年 1 月，pp162-165.  
” No.2,2001 年 4 月，pp130-133.  
” No.3,2001 年 7 月，pp136-139.  
” No.4,2001 年 10 月，pp136-139.

〔学会発表〕

- ・教育史学会第 45 回大会「戦後における『純潔教育』実践の展開―第 1 回全国純潔教育研究集会を中心に―」2001 年 9 月，於：上越教育大学.

小林由美

〔著書・論文〕

- ・「自然出産運動と助産婦の意識―助産所助産婦と病院助産婦への調査から―」埼玉県立大学短期大学部紀要，第 2 号，2001 年 3 月.
- ・杉山次子編:佐々井茂庵『産屋やしなひ草（1775）現代訳』共訳，芳心社,2000 年 3 月.

- ・健康教育大辞典編集委員会編『子どもとのからだと心 健康教育大辞典』共著,(担当項目:エクスタシー,エロス,性の自己決定)旬報社,2001年7月.

森政淳子

〔学会発表〕

- ・女子栄養大学栄養科学研究所第7回研究発表会「家族構成の変化と食生活」2001年5月, 於:女子栄養大学
- ・日本化成学会中国・四国支部研究発表会「家族構成の変化と食生活ーライフヒストリーからの一考察」2001年10月, 於:宇部短期大学

松井幾子

〔論文・その他〕

- ・「マラウイのAIDS孤児に関する調査研究」,『女子栄養大学教育学研究室紀要』第3号, 2000年3月.
- 〔学会発表〕
- ・第15回日本国際保健医療学会「マラウイ共和国のHIV/AIDS感染予防におけるAIDS孤児問題の現状」  
2000年8月, 於:長崎大学熱帯医学研究所

藤野彰子

〔著書・論文〕

- ・荒川唱子,小板橋喜久代『看護にいかすリラクゼーション技法』「意図的タッチ」pp.102-113, 「痛み」 p.122-128,2001年7月.

河内美江

〔著書・論文〕

- ・河内美江「失禁に関する研究動向ー 1980年代～ 1990年代を中心にー」,『女子栄養大学栄養学部教育学研究室紀要』第三号 74 - 88, 2000.
- ・瀬戸正子編著,河内美江,その他著:『在宅看護ガイド』,日総研, 167-175, 2000.

三浦麻矢

〔論文〕

- ・三浦麻矢,橋本紀子:「知的障害を有する子どもの生活と将来展望ー親の認識を中心にー」,『女子栄養大学紀要』第31号, 2000年12月, pp.107-119.
- 〔学会発表〕
- ・日本社会福祉学会第49回全国大会「知的障害者グループホームに対する近隣住民の認識と交流の実態」2001年10月20日・21日, 於沖縄コンベンションセンター・沖縄国際大学.